

「さくらカード」
は市民の宝！

市民の会が改善を求め熊本市へ要請

10月29日、「さくらカードをよくする会」は熊本市に対して、さくらカードの改善を求め要請を行いました。

要請項目は、① 高齢者のさくらカードを改悪せずに現状を維持すること、② 障がい者については、1割負担を無料とし、見せるだけで乗車できるおでかけパス券とすることを求めました。

要請には、さくらカードの利用者、また就労支援事業所の関係者

など多くの市民が参加し、現状とともにさくらカードへの思いを語り拡充を求めました。市議団も参加し、要求の実現に向け交渉を行いました



高齢者・障がい者の社会参加を支えるさくらカード 利用制限など後退させることは許されない！！

交渉では、「さくらカードがあるからこそ、通院ができ、買い物など外出ができています。改悪をしないでほしい。」「署名を集めている際には、さくらカードがどうなるのか不安の声が多く寄せられている。市民の声をし

っかり聴いてほしい。」「89歳の被爆者として、被爆体験を語る際など、さくらカードを利用しでかけている。現行制度を後退させないでほしい」など、多くの思いが寄せられました。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか やまびろし

熊本市中央区手取本町1-1 3階

NO. 1118
2018年11月4日号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP：http://www.jcp-kumamoto.com/

障がい者は カードへのチャージができず利用しづらい… 1割負担を無料とし、パス券の復活を！

障がい者の利用者からは、「ICカードとなり、残高不足でもチャージができず運転手から怒られたこともあった。声も出せないまま、利用しづらい状況。見せるだけ

で利用できるおでかけパス券の復活を求めたい」「1割負担となり、就労支援施設に通う交通費が大きく増えた。無料に戻してほしい」など、切実な声が寄せられました。

利用者と一度も会わない大西市長。直接声をきくべきです。

三角市長、幸山市長が利用者と直接面談を行ってきたことに対し、大西市長はまだ一度も利用者とは面談を行っていません。市長として直接会い、切実な声を受け止めるべきです。

大西市政のさくらカードの見直し方針（行財政改革計画より）

制度対象の範囲や所得制限・利用額の設定などについて、継続的に、そのあり方を検討する。

【控え室から】
灯ろうに託されたメッセージ

やまびろし



去る10月27、28日、地元武蔵校区で「むさし秋フェスタ」が開かれました。この催しは子どもたちを中心に昔遊びやさまざまな文化行事を通じて地域の交流をはかるものです。かれこれ20年近くに亘る地元の恒例行事です。

初日、「前夜祭」のメインは校区の子どもたちによる三角紙灯ろうや牛乳パック灯ろうの『武あかり』です。今年はこれまで最高の1500個もの灯ろうが用意され、とてもスケールの大きい展示となりました。天候にも恵まれ、風でろうそくの火が吹き消されることもなく、癒しのともじびが会場全体に広がっていました。

どの灯ろうも、きれいなデザインやイラストで彩られており、いずれも子どもたちのメッセージが添えてあります。「がんばろう熊本」、「絆」、など震災復興に関するものが多く、中でも「ありがとう」や「感謝」というものが多く見られました。

熊本地震発災から2年半。復興はまだまだ、緒についたばかりといわざるを得ない状況です。被災者の最後の一人にまで寄り添った支援。大型開発やハコ物ではない、そうした姿勢をしっかりと中心に据えた復興が求められます。



高齢者への保険料負担増 6.8 億円、痛みを感じない冷たい大西連合長

特別会計決算への質疑(保険料の負担軽減)や一般質問(災害減免の復活、一部負担金・保険料の減免)を行いました

相次ぐ保険料の負担増に、高齢者も悲鳴

年金が減り続ける中で、後期高齢者医療保険料は、10年間行われてきた軽減特例見直しによって、2017年度3億8000万円、2018年度3億円の負担増が押し付けられました。保険料負担に高齢者が悲鳴を上げるのも当然です。日本共産党市議団へも、昨年度は「保険料が何倍にも上がった」という電話が相次ぎ寄せられました。

後期高齢者医療制度は、制度開始にあたり、「姥捨て山」という批判の中で、激変緩和措置を行わなければ、スタートすることができなかったという欠陥制度です。

大西連合長は「保険料が上がるのは一部の人だから」と答弁しましたが、保険料が払えない高齢者の実態を見るならば、負担増の痛みを感じるべきです。

毎年100億円を超える黒字で、保険料の引き下げを

熊本県後期高齢者医療広域連合の特別会計(医療費の会計)決算は、毎年黒字を続けています。上野議員は「毎年100億円を超える大幅な黒字を活用し、保険料の引き下げを実施すべきではないか」と、大西連合長に質しました。

「保険料を引き下げれば、現役世代の負担が増えるので、引き下げは難しい」と大西連合長は答弁しましたが、現役世代に新たな負担を求めるのではなく、115億5500万円に上る決算剰余金、黒字分を使い保険料の負担軽減を実施すべきです。

熊本地震における医療費減免の復活に背を向ける大西連合長

熊本地震の発災から2年半です。9月末現在、プレハブ仮設・みなし仮設の入居は、10,843世帯、24,580人おられ、困難を抱えながらの生活です。自宅での生活も復旧に困難を抱える人が多数です。医療関係者のシンポジウムでは、益城町の医師から、地震発生後は、被災による医療提供体制ならびに被災者の住環境の変化などによって、精神的・肉体的ストレスが高まり、健康な人でも体調を壊

し、慢性疾患の方は病状が悪化するなど、地震によって被災者の健康が阻害されている様子が報告されています。

上野みえこ議員は、被災者への医療費減免の復活を求めましたが、大西連合長は「復活は難しい」と答弁しました。

仮設住民等から県に対し、2万人を超える署名も届けられており、被災者の声に応えた、減免復活が求められます。

医療費の一部負担金減免ならびに保険料減免の適切な実施を

広域連合では「後期高齢者医療に関する条例」に基づく保険料減免や、要綱に基づく一部負担金の減免や免除を定めています。

しかし実際には、医療費の一部負担金の減免や免除の適用は、1件もありません。

保険料減免についても、生活保護開始に伴うものを除けば、ごくわずかです。これら一部負担金や保険料減免の適切な運用を求めました。

